

## 週報

## こひつじ

第39巻 51号  
 大津キリスト教会  
 菊池郡大津町室 119  
 TEL 096-293-4470  
 FAX 096-293-4961  
 牧師 米村 英二

## 最後の言葉

## その二 イエスの渇き

次にイエスが、語られた言葉は、「わたしは渇く」であった。

母マリヤの今後について心を配られたイエスは、地上の義務に忠実な方であったが、同時にイエスの心には、地上の生活をはるかに超えた、もう一つの世界への強い欲求があった。

「わたしは渇く」と言われたイエスの言葉は、そのことを指しているように思われる。「どうしてわたしをお捜しになつたのですか。わたしが必ず自分の父の家にいることを、ご存じなかつたのですか」

「父上も私も、心配してあなたを捜し回っていたのです」

「父上も私も、心配してあなたを捜し回っていたのです」

「父上も私も、心配してあなたを捜し回っていたのです」

少年イエスにあった、この渇きが、その後のイエスの人生を導くのである。

「イエスよ。何ゆえあなたは渇かれるのですか」

とわれわれが問うなら、主はお答えになるだろう。

「父のみこころを行なうことが、わたしの食物です」と。

クリスチャンになつて私が得たものは多いが、その最たるものは地上のものを超えた世界への憧れだと言つてよいだろう。

人生には、飲み食いの世界だけでなく、それとは別のもう一つの世界への渇きがある。そのことを私に最初に教えてくれたのはキリスト教だった。

一八世紀のイギリスの詩人ワーズワースにもその渇きがあった。彼はそれを『雲雀（ひばり）』と題する歌によつてこう表現するのである。

私をつれて昇れ！  
雲の中につれて行け！  
雲雀よ、おまえの歌は強いから。  
私を引き上げ、導いて  
汝の心になう所まで

連れて行け！

私が早朝の散歩を始めて、二年近くなる。寒い時期は、朝はまだ暗い。晴れた日は金星が東の空に輝いて見える。

教会から自転車で五分ほどゆくと開けた田園地帯に出る。自転車をそこに置き、阿蘇の外輪山を遠くに見ながら農道を歩く。やがて雲が赤く染まり始め、美しい朝焼けを見ることも少なくなる。春になると、ひばりが高く舞い上がる。そのたびに私は、ワーズワースのさきほどの詩を思い出す。そして「私をつれて昇れ、雲の中につれて行け」と。

わずか一時間ほどの散歩だが、私の一日で、いちばん静かな、そして心の渇きがいやされるときなのである。

（終）

## 今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、  
第二礼拝は午前一一時から。

○説教は米村牧師。